

新年あけましておめでとうございます。

昨年は保護者の皆様に温かいご理解ご協力を頂き本当にありがとうございました。

子どもたちは昨年4月からの園生活での遊びや活動を通して、様々な体験を積み重ね一人ひとり個々の特性を発揮して、成長や発達を遂げていることに、本当にうれしく思っています。

さて、昨年一年を振り返ってみますと、本当に様々な事件や事故が多発した年でもありました。とりわけ乳幼児の虐待に関する悲惨な事件が報道されるたびに、本当に激しい憤りを感じたことは記憶に新しいところです。なぜ虐待が起きるのか一言で語れない程、各々の様々な複雑な要因があるのだらうと思います。しかし少なくとも虐待する側、される側の各々に喜びを分かち合える場が極めて少ないかったことが要因の一つに上げられるのではないのでしょうか！私たち保育者は子どもが喜ぶことを積極的に支援し、そのことを自分の喜びとすることが、何よりも大切であると考えます。

児童精神科医の佐々木正美さんは、アメリカの乳幼児精神医学の専門家 プルー ス・ベリー の言葉を引用して次のように語っておられます。「乳幼児期に子どもが泣いて訴えたことに、繰り返し何千回も応えてもらう経験が、子どもが大きくなって人間関係に喜びを見出す力になる」。私たち保育者は、園生活の日々の様々な場で子どもが泣いていることに遭遇する時が多々ありますが、例えば小さな赤ちゃんが抱っこして欲しい時・お腹が減っておっぱいが欲しい時・おむつが濡れている時などが上げられます。できる限り子どもの思いに応え寄り添っていきたいものです。

今年は5月に新しい天皇が即位され年号も変わり、記念すべき年となりそうですが、折しも本園も四月から「幼保連携型認定こども園」に移行する、大きな節目を迎えます。子ども一人ひとりが園生活に喜びを持てるよう私たち保育者も喜びを持って子どもたちと関わるができるよう、また認定こども園に変わって良かったと実感して頂きますよう、保護者の皆様のご意見・ご要望と大切に保育に取り組んでいければと思っています。

新しい年が保護者の皆様方として幸多き年でありましよう心から願っています。